

▼自宅のガレージは工房「もも吉」



「自分が楽をしたい、横着なだけなんですけどね」そう謙遜する中原さんの自宅のガレージには、無数の機械や発明品が並びます。

人がやっているものは一通りやってみたいという好奇心から、写真、バイク、アマチュア無線、陶芸など多岐にわたる趣味を持っている中原さんですが、その中でも日常的に精を出している

るのが『発明』です。

「例えばこれ、陶芸をやっていると、きろくろを手で回しているといずれ止まるでしょう。家にある廃材で電動ろくろを作ったんです。市販のものは高いしね」趣味や日頃の生活の中で、常に発明の機会をうかがっているといえます。その他、ガレージにあるたくさんさんの発明品を紹介する中原さんの目は、喜々としています。

動かなくなった機器や部品も宝の山。事業所などから譲り受け、中原さんが手をかければ便利グッズに生まれ変わります。発案のコツは「物をよく観察すること」。

勤務時代から、どうすればもっと早く、楽に仕事ができるだろうかと考えていました。作業の効率を上げ

るアイデアを職場改善制度に提案すると、たびたび受賞し、採用されます。得意分野と確信し、岩国発明研究会に入会したのは約30年前。以来、試行錯誤しながらさまざまな装置を開発し、中には商品化が決定して、今月から発売されるものもあります。

手先が器用な中原さんは、子供たちに竹細工を教える活動もしています。子供たちが扱いやすいところまで部品を作る機械ももちろん手作り。竹トンボを飛ばす練習ができる装置は大人気で、行列ができます。昨年夏に開催された世界スカウトジャンボリーでは、250個の竹トンボを自作し、各国のスカウトにプレゼントしました。

「生活が便利になる快感もあります。が、やっぱり自分の発明がみんなの役に立つと嬉しいですね」今後も中原さんの手によって生まれる発明品が楽しみです。



▲初の竹細工作品は、かつて奥さんが働いていた店の看板



▲「古いものが好き」動かなくなった発動機もすべて修理してコレクション



「人のため」を作る

魔法の手

Vol.82

中原 克己さん
(室の木町在住)

趣味から(一社)発明学会、岩国発明研究会に所属し、さまざまな発明品を考案。また自身の発明品を生かして市内の小・中学生に竹細工などを教えている。

